(1)　小中学校等における「総合的な学習の時間」の指導

①　「総合的な学習の時間」とは

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指します。

○　探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにします。

○　実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにします。

○　探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、お互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養うようにします。

②　「探究的な見方・考え方」の考え方

総合的な学習の時間においては、問題解決的な活動（探究のプロセス）が発展的に繰り返されていきます。それを「探究的な学習」と呼び、物事の本質を探って見極めようとする一連の知的営みのことであるといえます。

その探究的な学習の過程を支えるものが「探究的な見方・考え方」であり、二つの要素が含まれています。

一つは、各教科等における見方・考え方を総合的に働かせるということです。例えば、社会科等で育成した「社会的事象を一般化・概念化して他の事象でも活用できる」資質・能力を探究のプロセスで働かせることです。

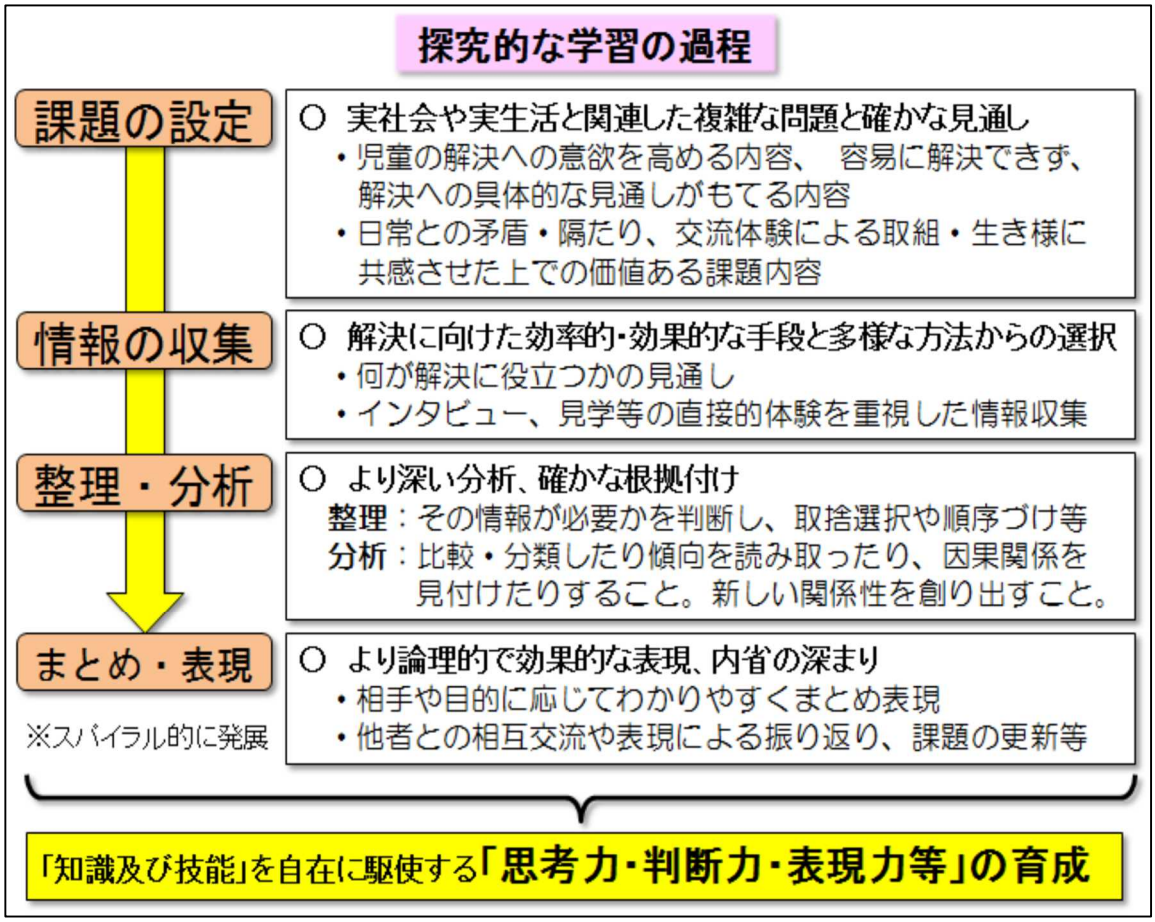
二つは、総合的な学習の時間に固有の見方・考え方を働かせることです。各教科等の枠を超えた事象を探究課題として設定していくために、一つの正答があるわけではなく、様々な角度から俯瞰的に学習を展開し、その過程において自己の生き方を問い続けるという固有の見方・考え方を意味します。

③　「課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する」の考え方

「課題の設定」→「情報の収集」→「整理・分析」→「まとめ・表現」の探究のプロセスをスパイラル的に発展させていく探究的な学習の過程を充実させることが「思考力・判断力・表現力等」の育成につながります。

具体な児童生徒の姿として、各教科等や探究課題の情報収集等で習得した「知識及び技能」を課題や状況に応じて選択したり、適用したり、組み合わせたりして自在に駆使・活用できることが「思考力・判断力・表現力等」が育成されていると考えることができます。

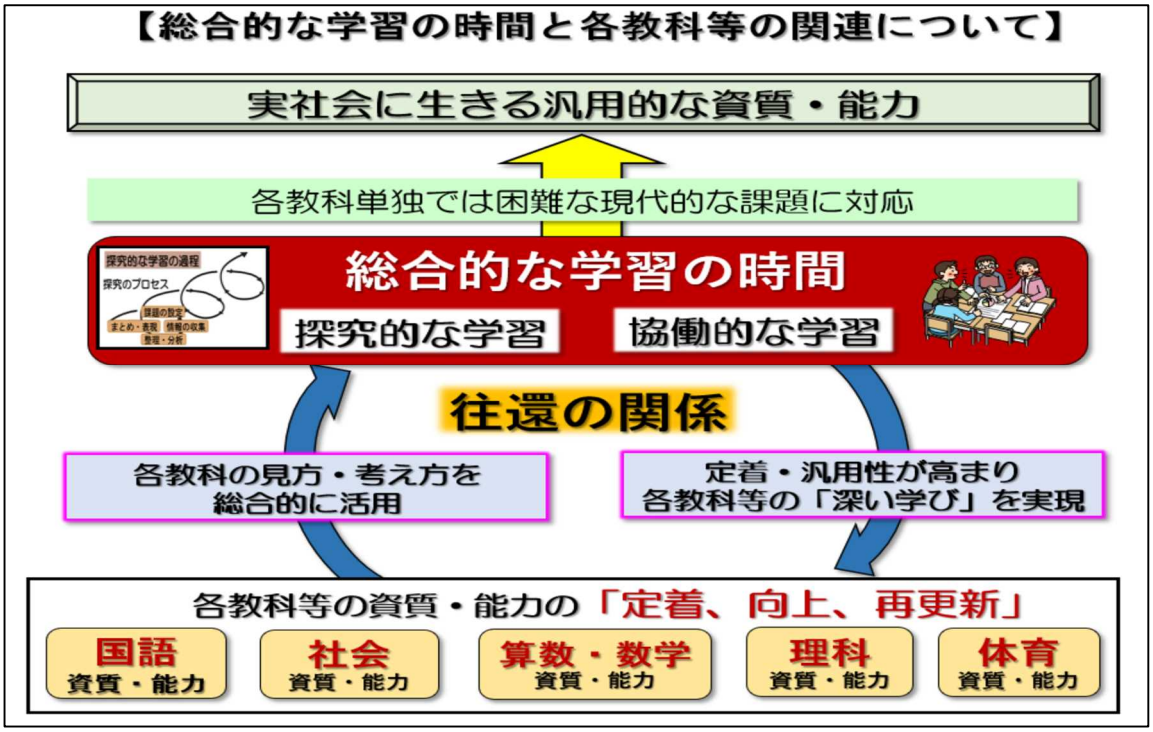
学習の過程において、地域や社会の生の事実を新聞等を通して考えることによって、地域の魅力や課題を知るきっかけにもなります。



④　「横断的・総合的な学習」の考え方

総合的な学習の時間での「横断的・総合的な学習」とは、各教科等の枠を超えて実社会・実生活の中から見いだされた探究する価値のある課題について、各教科等で身に付けた資質・能力を活用・発揮しながら解決に向けて取り組んでいくことです。

また、社会科の資料活用の方法を生かして情報を収集したり、算数・数学科のデータ活用の学びを生かして情報を整理したりするなど、各教科等で学んだことを総合的な学習の時間に生かすことで、その資質・能力の一層の定着や向上、さらには再更新など、深い学びにつながると考えられます。（※往還の関係）



⑤　「社会に開かれた教育課程」を意識した探究課題の設定

学校と地域社会が目標を共有して、育成する資質・能力を教育課程で明確化し、共に実践していく教育課程の編成のために、総合的な学習の時間で設定する探究課題の重要な視点として、「地域の課題」を取り上げ、単元化することが考えられます。

地域の課題には、解決に向けて日常的に取り組んでいる地域の方々や解決を望んでいる大人が多いと予想されます。そのため、児童生徒の学習において、より多くの地域人材が継続的にアドバイザーとして関わることが期待できます。また、学校と地域社会が課題解決という共有の目標をもち、実践していくことは、まさに「社会に開かれた教育課程」の具現化された姿とも言えます。